

第2章

1. 男女平等の意識について

1-1. 固定的な性役割分担意識（問8）〈図1-1〉

■男性では「男は仕事、女は家庭」という考え方に「そう思う」割合が高い

「男は外で働き、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねた。

女性の場合は、〈同感グループ〉（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が34.8%、〈同感しないグループ〉（「そうは思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が62.9%である。

男性の場合は、〈同感グループ〉が45.4%、〈同感しないグループ〉が52.3%である。男女で比較すると男性の方が〈同感グループ〉の割合が10.6ポイント高い。

1-2. 結婚、家庭生活に関する考え方（問9）〈図1-2〉

■半数の女性が「結婚は個人の選択」と考えている

結婚や家庭生活に関する考え方についてたずねた。

「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい」にたいしての「賛成」は、女性50.9%・男性38.5%、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」にたいしての「賛成」は、女性37.4%・男性27.5%、「結婚してもうまくいかないときは離婚することもやむを得ない」にたいしての「賛成」は、女性42.7%・男性33.6%、いずれの項目でも女性の方が「賛成」の割合が10ポイント前後高い。

1-3. 家庭における役割分担についての考え方（問10）〈図1-3〉

■男女ともに「生活費をかせぐ」では男性の役割、「日常の家計の管理」「日常の家事」では女性の役割であるとの割合が高い

家庭における役割についての考え方をたずねた。

「生活費をかせぐ」では「主に夫・パートナー（男性）」の割合が女性63.1%・男性65.3%で男女共に最も高い。「日常の家計の管理」「日常の家事」では「主に妻・パートナー」の割合が男女ともに50%前後で最も高い。「家族の介護や看護」「育児や子どもの教育としつけ」「町内会や自治会などの地域活動」では「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が男女共に最も高い。

1-4. 現実の家庭における役割（問10）〈図1-4〉

■現実の家庭では、「考え方」よりも「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が低い

現実の家庭における役割についてたずねた。

「生活費をかせぐ」では、男女ともに「主に夫・パートナー（男性）」の割合が高く女性74.1%・男性77.4%である。一方、「妻・パートナー（女性）」の割合が高いのは「日常の家計の管理」（女性79.3%・男性77.4%）、「日常の家事」（女性82.2%・男性77.9%）である。

「役割についての考え方」と比較すると、いずれの項目でも男女ともに「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が低い。「考え方」と「現実」で、「夫婦・カップルで同じくらい分担」の差が最も大きいものは、「家族の介護や看護」においてで、女性は考え方67.4%・現実21.1%で46.3

ポイント差、男性は考え方 58.4%・現実 27.9%で 30.5 ポイント差である。

2. ワーク・ライフ・バランスについて

2-1. 暮らし方の希望と現実（問 1 1）〈図 2-1、図 2-2〉

■「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」の割合は「希望」としては高いが、「現実」では低い

「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度についてたずねた。

男性の場合、希望の暮らし方では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」が最も割合が高く 37.4%、「『仕事』を優先」の割合は 3.8%である。しかし現実の暮らし方を見ると、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」の割合は 6.5%にとどまり、「『仕事』を優先」が最も高い割合の 38.9%となっている。

女性の場合、希望する暮らし方では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」が最も割合が高く 36.1%である。実際の暮らし方では「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」が最も高く 23.1%、次いで「『仕事』を優先」が 20.7%と高い。

2-2. 男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策（問 1 2） 〈図 2-3〉

■女性では家庭や学校で体験が必要との割合が高く、男性では話し合い・意識改革の必要との割合が高い

男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策についてたずねた。

女性の場合、最も割合が高かったのは「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」(55.7%)で、「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(53.1%)、「男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること」(44.3%)が続く。

男性の場合、「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が 43.9%でもっとも高い。女性では最も割合が高い「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」は、男性では 21.3 ポイント低い 34.4%にとどまる。男性の方が女性より割合が高い項目としては「男性自身が仕事中心の生き方、考え方を改めること」(女性 32.4%・男性 36.6%)がある。

3. 地域活動について

3-1. 女性リーダーを増やすための方策（問 1 3）〈図 3-1〉

■女性では「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供」の割合が多い

地域や職場で女性リーダーを増やすためにはどうすればよいかをたずねた。

女性では「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」の割合が最も高く 64.5%である。男性では「女性リーダーに対する男性の意識を変える」の割合が最も高く 45.8%である。

「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」、「女性が活動できるように、家族で家事を分担する」ではそれぞれ 19.8 ポイント・13.8 ポイント女性の方が高くなっている。一方、「女性自身が意識を変える」は 8.9 ポイント男性の方が高くなっている。

3-2. 現在参加している活動と今後参加したい活動（問14）〈図3-2、図3-3〉

■ 2人に1人の割合で何らかの活動に参加している

現在参加している活動と今後参加したい活動についてたずねた。

現在、「どれにも参加していない」の割合が男女ともに最も高く女性 47.7%・男性 50.0%である。「どれにも参加していない」の割合を年代別にみると、20歳代女性では 60.8%、20歳代男性では 70.6%で、20歳代は男女ともに年代中最も高くなっている。参加している活動では「自治会活動」が女性 14.6%・男性 18.7%で男女ともに最も割合が高い。

今後参加したい活動については、女性の場合、「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」の割合が最も高く 30.2%である。男性の場合、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」の割合が 20.2%で最も高い活動内容である。

「参加したくない」とする割合は女性 16.7%・男性 23.3%となっている。

4. 男女の地位に関する意識について

4-1. 男女の地位の平等感（問15）〈図4-1〉

■ 「社会通念・慣習・しきたり」では『男性優遇』と考える男女は7割を超える

社会のさまざまな分野における男女の地位の平等感についてたずねた。

「平等である」の割合が男女ともに最も高かったのは「学校教育の場で」で女性 42.4%・男性 51.1%である。「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合を合計した『男性優遇』の割合が最も高かったのは男女ともに「社会通念・慣習・しきたり」で女性 75.3%・男性 72.9%である。次いで「政治の場」が女性 73.2%・男性 66.4%の割合で高くなっている。

『男性優遇』の割合が男女差で大きいのは、「家庭生活」と「法律や制度の上で」で、それぞれ 16.0 ポイント、16.1 ポイント女性のほうの割合が高い。

5. 教育について

5-1. 子どもに望む生き方（問16）〈図5-1〉

■9割の男女が「個性や才能を生かした生活」を望んでいる

子どもがいると仮定して、将来「どのような生き方」をして欲しいかをたずねた。

「本人の個性や才能を生かした生活をする」では、「女子・男子の両方に」の割合が女性 91.5%・男性 89.3%と最も高い。また、「社会的な地位を得る」を除いた全ての項目で「女子・男子の両方に」を望む割合が男女ともに7割から9割に達する。

「社会的な地位を得る」に関しては他項目と比べて、「女子・男子の両方に」の割合は女性 48.8%・男性 46.6%と低く、「女子・男子の両方に望まない」の割合が女性 22.5%・男性 26.3%と高い。

「特に女子に」の割合が高い項目は「炊事、掃除、洗濯など家事が出来る」（女性 12.7%・男性 19.8%）、「特に男子に」の割合が高い項目は「社会的な地位を得る」（女性 18.8%・男性 22.5%）、「経済的に自立した生活をする」（女性 13.0%・男性 18.7%）である。

5-2. 小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組み（問17）〈図5-2〉

■男女ともに子どもの個性や能力を生かせる教育を望む割合が高い

小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組みについてたずねた。

「男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」（女性 75.6%・男性 71.0%）、「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」（女性 70.3%・男性 62.6%）の割合が男女ともに高い。男女で比較すると「こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う」は女性 51.5%・男性 38.2%で女性の方が男性よりも 13.3 ポイント割合が高い。

6. 心と体の健康について

6-1. 「男はつらい」と感じる事（問18、問18-1）〈図6-1、図6-2〉

■50歳代男性では7割が「男はつらい」と感じている

男性に「男はつらい」と感じる事があるかたずねた。

「ある」の割合は 57.3%で、「ない」の 40.8%を 16.5 ポイント上回っている。

年代別にみると、20歳代では「ある」が 38.2%、「ない」が 52.9%で、「ない」が 14.7 ポイントほど上回っている。30歳代では「ある」と「ない」は 48.2%で同率である。40歳代では「ある」が 61.4%、「ない」が 38.6%、50歳代では「ある」が 72.3%、「ない」が 27.7%と、それぞれ 22.8 ポイント・44.6 ポイントほど「ある」が上回っている。

「男はつらい」と感じる理由をみると、「家族を養うのは男の責任だと言われる」（45.3%）、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる」（41.3%）の割合が高い。次いで、「男だから頑張れと言われる」（29.3%）、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」（27.3%）、「常にリードすることが求められる」（26.7%）と続いている。

6-2. 女性の心身の健康を保つために泉佐野市が取組む必要があること（問19）〈図6-3〉

■検診や健康づくりに関する情報提供や安心して出産できる医療体制の充実が6割を超える男女が望んでいる

女性の心身の健康を保つために泉佐野市が取り組む必要があることについてたずねた。

女性の場合、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」(69.0%)、「安心して出産できるよう医療体制を充実する」(65.5%)、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(64.7%)の割合が高い。

男性の場合、「安心して出産できるよう医療体制を充実する」(61.1%)、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」(56.1%)、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(47.7%)の順に割合が高くなっている。

年代別に見ると、20代女性では「安心して出産できるよう医療体制を充実する」の割合が84.3%と高い。

6-3. 日ごろ、困り事や悩み事などを話す相手(問20) <図6-4>

■主な相談相手は「家族」や「友人」

日ごろ、困り事や悩み事などを話す相手についてたずねた。

男女ともに「家族」(女性78.2%・男性69.8%)が最も高く、次いで、「友人」(女性62.9%・男性42.4%)と続く。「家族」・「友人」については、女性がそれぞれ8.4ポイント・20.5ポイントほど男性よりも高い。

相談相手が「誰もいない」の割合は女性5.3%・男性9.5%で男性の方が割合が高く、男性30歳代では17.9%が「誰もいない」を選択している。

6-4. 公的な相談機関・窓口の認知度と利用状況(問21) <図6-5>

■「発達相談、育児相談」、「家庭児童相談、母子家庭相談」、「無料法律相談」の認知度は高い

泉佐野市や大阪府の主な相談機関や相談窓口の認知状況についてたずねた。

『知っている』の割合が高い項目は「家庭児童相談、母子家庭相談」(女性68.5%・男性55.4%)、「発達相談、育児相談」(女性70.6%・男性51.2%)、「無料法律相談」(女性63.7%・男性59.1%)である。「利用したことがある」の割合は「発達相談、育児相談」が女性13.3%・男性11.1%で男女ともに最も高く、「無料法律相談」が女性8.0%・男性8.0%と続く。

「知らない」の割合が高いのは、女性では「性犯罪者被害者相談(ウーマンライン)」(67.4%)、「大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談」(61.0%)である。男性では、「大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談」(73.3%)、「大阪府女性相談センター」(72.9%)が高い。

年代別に見ると20歳代女性は全ての項目で「知らない」の割合が年代中最も高い。

7. 男女共同参画の認知状況について

7-1. 男女共同参画に関する言葉の認知度(問22) <図7-1>

■「ドメスティック・バイオレンス」の認知度は約9割

男女共同参画に関する言葉の認知度についてたずねた。

男女ともに最も認知度が高かったのは「ドメスティック・バイオレンス(DV)」で女性91.5%・

男性 89.7%である。次いで「男女雇用機会均等法」(女性 76.7%・男性 82.1%)、「育児・介護休業法」(女性 63.9%・男性 64.1%)となっている。認知度が低かったのは「人ひとプラン(泉佐野市男女共同参画すいしん計画)」(女性 6.4%・男性 6.9%)、「いずみさの男女共同参画つうしん F i n e」(女性 11.9%、男性 7.6%)である。

7-2. いずみさの女性センターの利用状況(問 23) <図 7-2>

■最も多いのは「講座やセミナー」の利用者

「いずみさの女性センター」の名前を聞いたことがある人に、利用状況をたずねた。

男女ともに、「講座やセミナー」が女性 25.0%・男性 18.2%で最も高くなっている。次いで、女性では「情報収集や図書の利用」(15.4%)、「仲間づくりや団体とのネットワーク活動」(10.6%)が続いている。

8. 人権の尊重について

8-1. 女性の人権が尊重されていないと感じること(問 24) <図 8-1>

■「性犯罪」・「DV」・「痴漢行為」が男女ともに割合が高い

女性の人権が尊重されていないと感じることについてたずねた。

男女とも「性犯罪」(女性 63.7%・男性 61.1%)、「DV・デートDVに女性の被害者が多いこと」(女性 61.0%・男性 50.8%)、「痴漢行為」(女性 56.8%・男性 50.0%)の割合が高い。

すべての項目で男性の回答割合は女性を下回り、「DV・デートDVに女性の被害者が多いこと」(10.2ポイント差)、「職場での男女の待遇の違い」(13.3ポイント差)、『女のくせに』『女だから』などという言葉(10.2ポイント差)で男女差が大き。さらに性・年齢別で見ると、「痴漢行為」では女性の20歳代では76.5%が人権が尊重されていないと感じているのに対して、男性40歳代では40.0%と、36.5ポイントの開きがある。

8-2. セクシュアル・ハラスメントにあたると思うこと(問 25) <図 8-2>

■「キスなどの性的な行為を強要される」では男女ともに8割がセクシュアル・ハラスメントにあたると思っている

セクシュアル・ハラスメントにあたると思うことについてたずねた。

「キスなどの性的な行為を強要される」が女性 80.4%・男性 84.7%でともに最も高く、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」(女性 74.3%・男性 81.7%)、「わざと身体に触れられる」(女性 75.6%・男性 75.6%)が続いている。

男女で比較すると、「からだをじろじろ見られる」は女性 50.1%・男性 40.1%と女性が男性よりも10.0ポイント高い。一方、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」では男性が女性よりも7.4ポイント高い。

8-3. セクシュアル・ハラスメントの経験（職場、学校、地域）（問25）＜図8-3、4、5＞

■職場では「力仕事やお茶くみ」、学校では「容姿」、地域では「おばさん・おじさん」

職場、学校、地域におけるセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねた。

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性では「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」と「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が同率の16.4%で最も高い。男性では「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」が13.7%で最も高い。

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が、女性6.6%・男性6.5%で最も高い。年代別にみると、20歳代は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が女性21.6%・男性14.7%と他の年代よりも高くなっている。

地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女ともに「『女の子、おばさん』『男の子、おじさん』など名前とは異なる呼ばれ方をする」が最も高く女性4.2%・男性3.1%である。

8-4. 「暴力」にあたると思う行為（問26）＜図8-6＞

■身体的な暴力については男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が約8割

配偶者やパートナーからの行為で「暴力」にあたると思う行為についてたずねた。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い項目は「身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」（女性85.4%・男性84.4%）、「平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる」（女性83.3%・男性78.6%）、「望まない性行為を強要される」（女性70.8%・男性59.9%）である。

男女で比較すると、すべての項目において「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が女性は男性を上回っており、「あなたのお金を取り上げたり預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない」、「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」では、それぞれ14.2ポイントと13.1ポイント、女性が男性よりも高い。

8-5. 配偶者やパートナーから暴力を受けた経験（問26）＜図8-7＞

■女性で「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」の経験は30.2%

配偶者やパートナーから暴力を受けた経験をたずねた。

「たびたびあった（ある）」と「たまにあった（ある）」を合計した『経験がある』は、男女ともに「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」が最も高く女性30.2%・男性24.8%である。次いで高いのは、男女ともに「何をやっても、何を言っても長期間無視される」で、女性16.7%・男性19.8%である。

「何をやっても、何を言っても長期間無視される」と「あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする」「身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」を除く項目において、女性の方が男性よりも『経験がある』の割合が高い。「たびたびあった（ある）」に限れば、全ての項目において女性の方が男性よりも割合が高い。

8-6. 暴力を受けた後の相談状況(問27) <図8-8>

■「相談しようと思わなかった」の割合は女性では36.2%、男性では56.0%

暴力を受けた後の相談状況についてたずねた。

最も割合が高い相談相手は、男女ともに「友人・知人」で女性28.3%・男性14.3%、次いで、「家族や親族」の女性22.4%・男性8.8%である。

「相談しようと思わなかった」の割合では女性36.2%・男性56.0%、「相談したかったが、しなかった」の割合は女性12.5%・男性13.2%である。「相談しようと思わなかった」では男性の方が19.8ポイントほど女性よりも割合が高い。

8-7. 相談しなかった、しようと思わなかった理由(問28) <図8-9>

■「相談するほどのことではないと思ったから」が男女ともに50%を超える

暴力について相談しなかった、しようと思わなかった理由についてたずねた。

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合は、女性55.8%・男性63.1%で男女ともに最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性32.5%・男性44.6%)、「自分さえがまんすればすむと思ったから」(女性26.0%・男性18.5%)が男女ともに続いている。

9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

9-1. 男女があらゆる分野で平等になるために重要と思うこと(問29) <図9-1>

■女性では「仕事と育児・介護等の両立を支援」、男性では「意識改革」

男女があらゆる分野で平等になるために重要と思うことについてたずねた。

女性の場合は、「仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること」が57.0%で最も高くなっている。次いで、「女性自身が経済力を得たり、知識・技術を習得するなど、積極的に生活力や地位の向上を図ること」(54.4%)、「男性の意識改革」(52.3%)の割合が高い。

男性の場合は、「男性の意識改革」が62.2%で最も高い。次いで「女性の意識改革」(51.9%)、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(46.2%)の割合が高い。

「女性自身が経済力を得たり、知識・技術を習得するなど、積極的に生活力や地位の向上を図ること」、「仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること」では、それぞれ16.2ポイント・13.9ポイント女性の方が割合が高くなっている。

9-2. 泉佐野市で男女共同参画を推進するために力を入れて取り組むべきこと(問30) <図9-2>

■「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」が男女ともに50%を超える

泉佐野市で男女共同参画を推進するために力を入れて取り組むべきことについてたずねた。

男女ともに最も割合が高かったのは、「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」で女性 69.5%・男性 52.7%である。

女性では「女性の就職や再就職、起業、資格取得に対する支援を充実する」(50.1%)、「職場において男女が公平な待遇をされるよう企業等に働きかける」(38.7%)が続く。

男性では「女性に対する暴力（セクシュアル・ハラスメントや配偶者・パートナーからの暴力）の防止や被害者への支援を充実する」(33.2%)、「お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする」(32.1%)、「市の男女共同参画に関する政策・事業について市民の声を聞く場や制度を充実させる」(32.1%)が続く。